

コレクターズ・ガイド

このモデルは1949年に製作された。パリは1940年、中央ヨーロッパ時間に移行したが、ロンドンと同一のタイムゾーンに記載されているという点が注目される。当時、パリはやがてグリニッジ標準時に戻るだろうと信じられていたのである。

本品はキャリバー 17"170を搭載しており、おそらく他のすべての605 HUモデル同様、七宝文字盤の裏面にルイ・コティエの銘を見ることができる。コティエは通常、文字盤に署名することはなかったから、イニシャルのLとCを組み合わせたこの銘はたいへん希である。この銘は、コティエがひとつひとつのタイムピースの製作を監督したという事実を立証している。



605 HUモデルの大部分のバージョンでは、インナーベゼルの都市名は英語で記載されており、フランス語で地名を記した本品は、希少な例となっている。

オリジナルのクロワソネ七宝装飾を備えたモデルは、製作個数が20点に満たないため、きわめて追い求められるタイムピースとなっている。本品の世界地図は直径が約22 mmあり、パテック フィリップの歴史的な懐中時計の文字盤を装飾するものとしては、最も大きなものである。サテン仕上げの文字盤を備えたバージョンは、価格がより手頃であり、一部の金属文字盤を備えたオリジナル・モデルは、クロワソネ七宝にアップグレードされている。

文 ジョン・リアドン | イラスト ナビル・ネザール

一部の時計は単に豪華な機械的オブジェではなく、高度な芸術作品と見なされるに至り、中でも懐中時計は時計製作の世界における古典的名作とされる。1937年から1950年代初めまで製作されたパテック フィリップのワールドタイム懐中時計605 HUモデルはその最良の例である。

このモデルに搭載されているメカニズムは、時計製作の天才ルイ・コティエによって発明された。回転する24時間表示リングと24のタイムゾーンに対応する都市名を表示した外側のリングにより、世界のあらゆる場所の時刻を表示する。コティエは1937年、パテック フィリップのために初めてワールドタイム懐中時計ムーブメントを製作し、以後、合計82点の605 HUモデルを納入した。ケースはメカニズムに統合され、刻み入りの回転ベゼルにより12時位置に「ホームタイム」をセットすることができた。コティエは、ケーシングの後、完璧に動作するように、各々のタイムピースの仕上げを監督した。彼はまた、これらの時計の指針も円、半円、百合の紋章（1949年製作の本品はその例）などさまざまなデザインで自ら製作したため、ひとつひとつがユニークピースであった。

パテック フィリップにより「ワールドタイム・ドレスウォッチ」と命名された605 HUモデルは、シルバー、ブラック、シャンパン、またはピンクのギョシエ装飾など、多岐にわたる文字盤を搭載していた。しかし20点に満たない最も希少な例は、地図、黄道十二宮、神話上の動物などをかたどったデリケートなデザインのクロワソネ七宝文字盤を備えていた。

中でも最も追い求められるバージョンは世界地図を描いたものであり、知られる限り2点のみが存在する。七宝工芸の粋を極めた表現により、これらの特別なタイムピースは熱望されるべき芸術品となっているが、コティエが実地に関わったという事実により、各々の605 HUモデルはユニークな機械式時計の宝物でもある。